

「平成24年度全国学力・学習状況調査」津市の調査結果

平成24年10月
津市教育委員会

1 調査の概要

(1) 実施日

平成24年4月17日（火）

(2) 調査対象

- ・ 市内小学校第6学年の児童 2,405人
- ・ 市内中学校第3学年の生徒 約2,200人(教科による参加人数の相違加味)

2 調査結果

(1) 各教科正答の状況

教科に関する調査の平均正答率・正答数は次のとおりである。

	小学校調査					中学校調査				
	国語		算数		理科	国語		数学		理科
	A(知識)	B(活用)	A(知識)	B(活用)		A(知識)	B(活用)	A(知識)	B(活用)	
全国 平均正答率	81.6%	55.6%	73.3%	58.9%	60.9%	75.1%	63.3%	62.1%	49.3%	51.0%
三重県 平均正答率	79.6%	52.7%	72.2%	56.8%	58.0%	74.0%	61.1%	61.6%	48.0%	50.6%
津市 平均正答率 概要	全国より 低い	全国より 低い	全国と ほぼ同じ	全国より 低い	全国より 少し低い	全国と ほぼ同じ	全国より 少し低い	全国より 低い	全国より 低い	全国と ほぼ同じ
全国 平均正答数	13.9問 /17問	6.1問 /11問	13.9問 /19問	7.7問 /13問	14.6問 /24問	24.0問 /32問	5.7問 /9問	22.4問 /36問	7.4問 /15問	13.3問 /26問
三重県 平均正答数	13.5問 /17問	5.8問 /11問	13.7問 /19問	7.4問 /13問	13.9問 /24問	23.7問 /32問	5.5問 /9問	22.2問 /36問	7.2問 /15問	13.1問 /26問

※ 平均正答率及び平均正答数については、全国、三重県、津市いずれも公立校のみの結果を集計した値である。

※ 平均正答率概要については、全国と津市の差異が±0.3%以内をほぼ同じ、±0.3%～1.0%を少し高い・低い、±1.0%以上を高い・低いと表している。

○ 各都道府県の平均正答率の状況については、平成22年度同様、ほとんどの都道府県の平均正答率が全国の平均正答率の±5%の範囲内にあり、ばらつきが小さい。

◎ 津市の平均正答率については、全国の平均正答率の±5%の範囲内にある。

(2) 教科ごとの結果概要

- (小学校国語)・目的や意図に応じ、必要となる事柄を理解して、簡潔に書くことに課題が見られる。(新聞記事のリード・手紙の後付け)
- ・複数の記事を結び付けて読み、事実を基にして自分の考えを書くことに引き続き課題が見られる。
- (小学校算数)・整数・小数・分数の四則計算については相当数の児童ができている。
- ・表や図から判断の根拠となる数値を取り出し、事実を基に筋道を立てて判断した理由を過不足なく説明することに課題がある。
 - ・割合の意味・はかりの目盛の読み取りに課題が見られる。
- (小学校理科)・全国(公立)と同程度の理解ができおり、物は形が変わっても重さはかわらないことや方位磁針の名称の理解は、相当数の児童ができている。
- ・方位磁針の適切な操作方法や物は水に溶けても重さが変わらないことへの理解、観察・実験の結果などを整理・分析した上で、解釈・考察し、説明することなどに課題が見られる。
- (中学校国語)・主に言語事項については、全国とほぼ同じ程度の理解ができている。
- ・目的に応じて必要な情報を読み取ったり聞き取ったりして、自分の考えを書くことに課題が見られる。
- (中学校数学)・正四角錐の体積や簡単な比例式を解くこと・度数分布や三角形の合同条件の理解に課題が見られる。
- ・問題解決の方法や判断の理由を数学的な表現を用いて説明したり、数学的に表現された事柄を読み取ったりすることに課題が見られる。
- (中学校理科)・電力に関する知識を活用して、LED電球の省エネ効果を考えることや地層観察に関する着目点については相当数の生徒ができている。
- ・電圧や電流という用語の定義を理解し活用して、実験方法の改善や正しい実験方法を説明することに課題が見られる。

判断の根拠となる必要な情報を選択し、基礎的・基本的な「知識」を活用しながら、事実に基づいて論理的に説明する「思考力・判断力・表現力等」を身につけさせることが重要である。

3 結果を踏まえた取組

- 調査結果等を活用した指導方法の検証・改善を図るため、「調査活用説明会」を開催し、各校での指導改善に活かす。
- 各校の課題に応じた研修体制の充実を支援する。
- 日常生活での活用を意識した基礎的・基本的な「知識」の定着及び事実に基づき論理的に説明する「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための指導方法の研究とその支援をする。
- 教育環境整備 (ICT 環境の充実、図書館の整備等) と活用を図る。
- 輝きプロジェクトの基盤に地域連携を位置づけ、学校・家庭・地域の連携を促進するとともに、津P連の協力も得て、家庭学習状況や基本的な生活習慣の改善を図る。

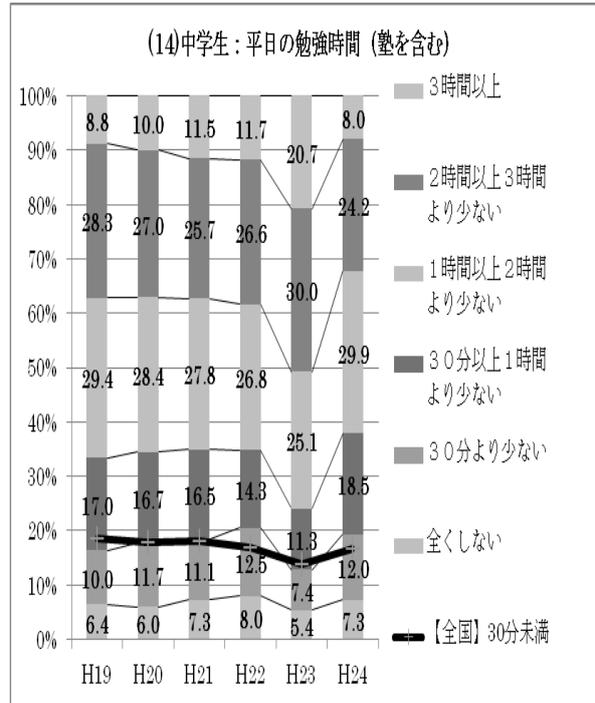
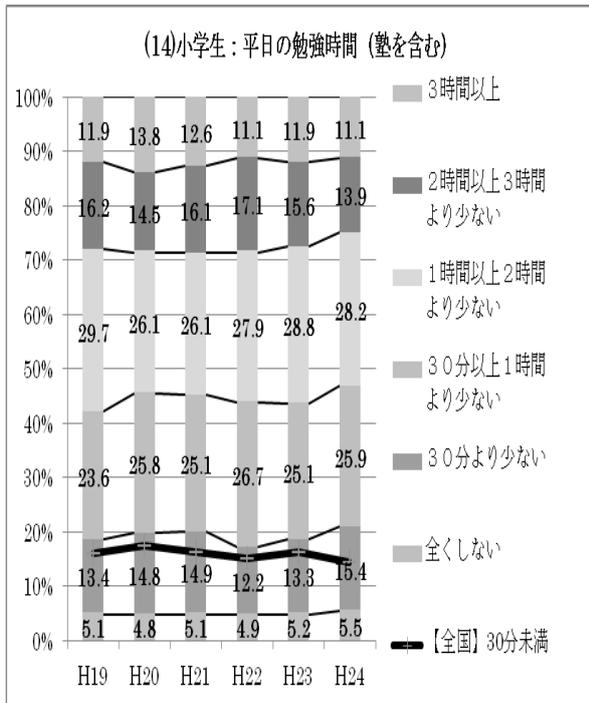
児童生徒質問紙の回答状況（抜粋資料）

1 家庭学習について

(1) 1日の学習時間

平日の家庭学習(塾や家庭教師を含む)を「全くしない」または「30分より少ない」の割合が全国より高く、これまでの津市の状況と比べて変化が見られない。また、休日においても、同様の傾向が見られる。

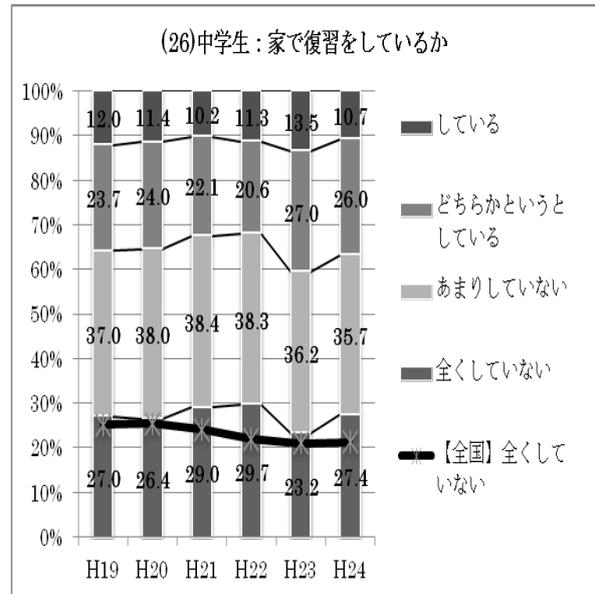
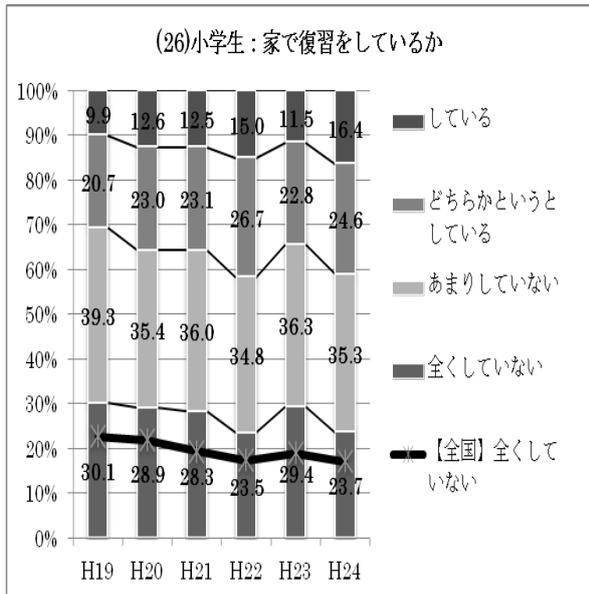
質問：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか。



(2) 授業の復習時間

家で復習を「全くしていない」割合が、小・中学生とも全国より依然高いが、小学生の「している」または「どちらかというとしている」の割合はやや増加の傾向にある。

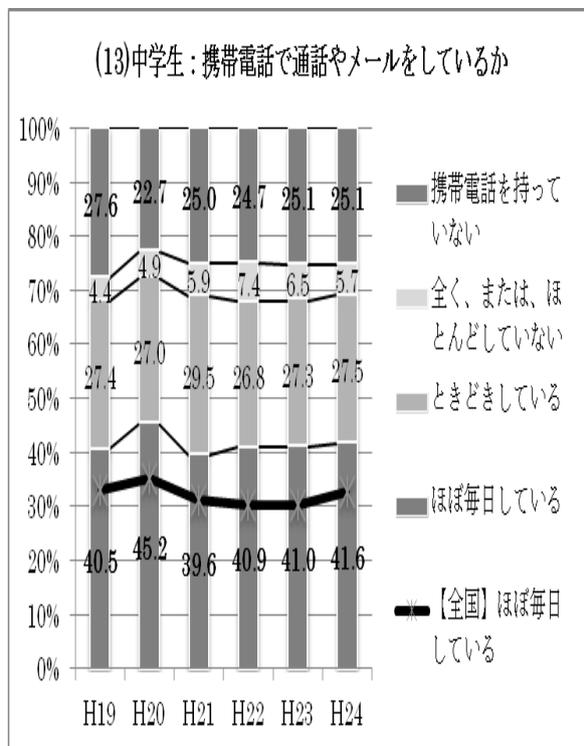
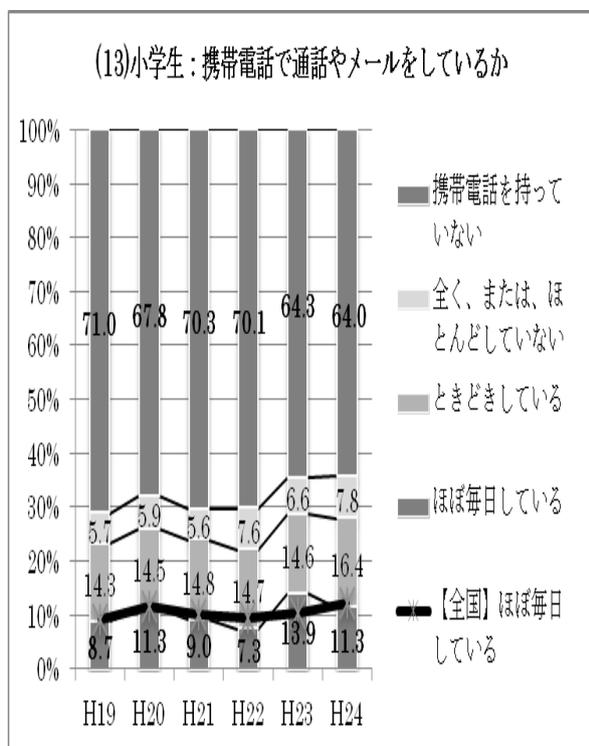
質問：家で学校の授業の復習をしていますか。



2 家庭生活について

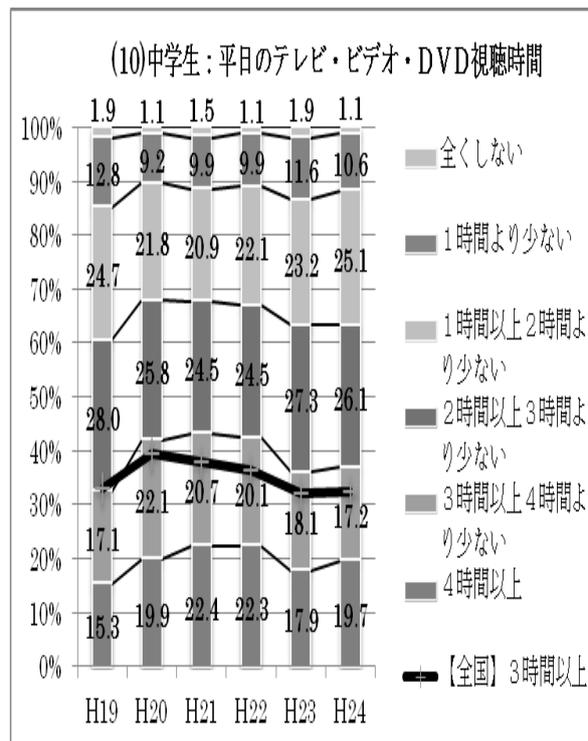
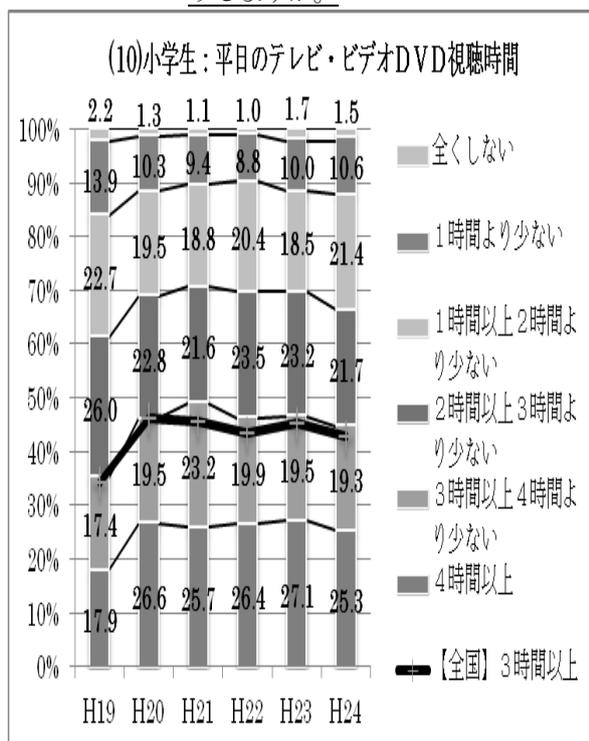
(1) 携帯電話

「ほぼ毎日通話やメールをする」小学生の割合は全国より少し低いが、中学生の割合は依然として非常に高い。
質問：携帯電話で通話やメールをしていますか。



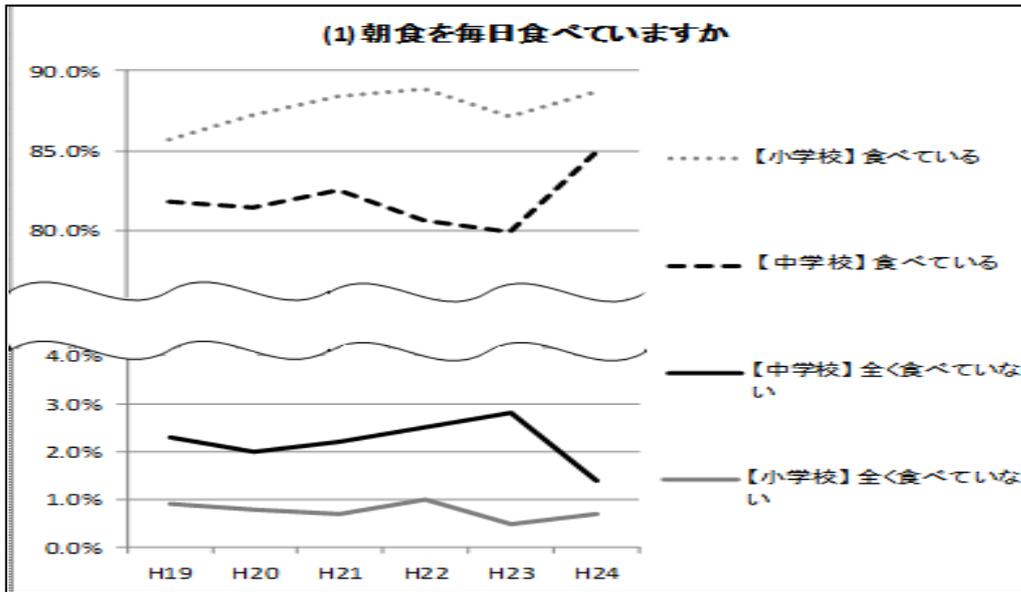
(2) テレビやビデオ・DVD

テレビやビデオ・DVDを3時間以上視聴している小・中学生の割合が非常に高い。
質問：普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。



(3) 基本的な生活習慣

朝食を「毎日食べている」小学生の割合はあまり変わらないが、中学生の割合は、少し増加している。また、「全く食べていない」中学生の割合が、平成23年度から半減している。
 質問：朝食を毎日食べていますか。



3 自尊感情

「自分にはよいところがある」という小・中学生の割合が増加の傾向にある。
 質問：自分には、よいところがあると思いますか。

